

U-19(19才以下)ラグビー世界大会に参加して

橘病院整形外科

U-19 ラグビー日本代表チームドクター

田島卓也

今回、機会に恵まれ3月19日から4月14日まで南アフリカのダーバンで開催されたU-19ラグビー日本代表のチームドクターとして第36回U-19ラグビーワールドチャンピオンシップに参加してきましたのでその報告をさせていただきます。

この大会には世界各国から全24チームが参加しています。日本は前回大会で過去最高の9位になりましたので、上位12チームが参加するDivision Aに組み込まれています。Division Aには日本のほかにニュージーランド、南アフリカ、オーストラリア、フランス、イングランド、ウェールズ、スコットランド、アイルランド、イタリア、グルジア、アルゼンチンというそうそうたる国が参加していました。日本は当然1番体格が貧弱でした。大きな怪我がでないかとずっと冷や冷やししながら毎日を過ごしていました。また、ご存知のとおり南アフリカは世界で1番治安が悪い国です。犯罪率がトップで、すれ違う人すべてが悪い人に見えるくらいでした。外出はほとんど出来ずにホテルとグラウンドの往復のみで3週間を過ごしました。

チームドクターの役割は選手をベストの状態グラウンドに送り出すこと、試合でベストパフォーマンスを発揮できるようにサポートすることです。そのためには外傷・傷害の管理、コンディショニングをしっかりとすることが求められます。また、国際大会ではドーピング検査がおこなわれるため、選手の常備薬やサプリメントなどの管理もしなければなりません。今回の遠征では17日間で5試合こなすハードスケジュールであったため、大きな怪我がでないか不安でした。一旦大きな怪我がでると今大会中に復帰できるかどうかは難しい状況でした。怪我がでないように同行したトレーナーと一緒にウォーミングアップ、クールダウン、就寝前のストレッチ、毎朝の体重測定と心拍数測定、練習後のアイスバス、飲水量コントロールなどのコンディショニングを徹底的に行い、怪我を未然に防ぐことを心がけました。また外傷が出た場合も次の試合に間に合うように処置を早くすることを徹底しました。また、南アフリカは元々ヨーロッパ圏であったため、食事は西洋料理でした。口には合うのですが、毎日同じものであったため最後には飽きました。しかもツアーの最中には体調を崩す選手が続出し、下痢が多発しました。このため、出てくる食事、水、生野菜、ジュース、氷、牛乳、ヨーグルトなどすべての食材はまずドクター、トレーナーが味見を行い、翌日にわれわれが下痢をしていなかったら選手にも許可をするということを徹底しました。おかげで私も数回下痢をおこしましたが、選手のコンディションが1番ですので率先して毒見をしていました。

結果はオーストラリアに2敗したものの、アイルランドに不戦勝とグルジア、スコットランドに勝って、日本ラグビー史上最高かつ初のベスト8(7位)の好成績を挙げることができました。大きな怪我もなく選手がベストパフォーマンスを発揮してくれたので、われ

われの苦勞も実った気がします。このような世界の大舞台で活躍する選手をサポートすることができ嬉しく思うと同時にチャンスを与えてくださった院長先生、柏木先生に感謝の気持ちでいっぱいです。経験してきたことを今後の診療に役立てるように頑張りたいと思います。



宿舎にて日本代表の選手たちと



試合前の U-19 日本代表の選手たち



南アフリカの空港にて。ズールー族の人たち。